第76回日本内科学会講演会（1979年）

シンポジウム 全身性疾患に伴う腎障害*

司会者のことば

司会 東京医科歯科大学第二内科 武内重五郎
司会 東京慈恵会医科大学第二内科 宮原 正

SYMPOSIUM ON RENAL INVOLVEMENT IN SYSTEMIC DISEASES

Moderator : Jugoro TAKEUCHI, MD

The Second Department of Internal Medicine, Tokyo Medical and
Dental University School of Medicine

Moderator : Tadashi MIYAHARA, MD

The Second Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, Tokyo

全身性疾患あるいはいわゆる系統的疾患においては、しばしば腎がおかされ、ときには腎が病変の主座となつて、疾患の予後に重大な影響を与え、直接死因に結びつくことも少なくない。全身性疾患に遭遇したとき、腎がおかされていないか、またおかされているとすればどのような形で、どの程度におかされているかなどに注目する必要があることが多い。

本シンポジウムにおいては、これらの全身性疾患のうち、糖尿病、痛風、全身性エリテマトーデスの3者をとりあげることとした。これら3疾患

は腎を障害する頻度が高く、疾患の経過・予後を左右し、死因としても重要な因子となっており、また腎障害の発生の機序についても多くの興味ある問題を有しているからである。

本シンポジウムにおいては、これら3疾患の腎障害がどのような機序によつておこるか、またこれら疾患の治療がどの程度、腎障害の発生を防止し、あるいはすでに発生した腎障害の進展を遅延させ得るか、などについて論じてみたいと思つている。

本シンポジウムでは、演者間の討議のみでなく、むしろフロアからの活発な討論を期待している。シンポジウムの本来の目的は聴衆と演者との討論にあると考えるからである。

* 本シンポジウムは1979年4月6日 東京都港区芝公園 東京プリンスホテル 鳳凰の間にて行なわれた。本シンポジウムは公募したものである。